

優しく気さくなインドネシア人

刺激的な毎日

日本を見直す機会にも



インドネシア教育大学へ留学 人文学部社会科 浅倉みさき

インドネシア教育大学に日本語教授法プログラムの海外演習で2015年9月に留学、年末に帰国しまし



た。インドネシアに興味を持ったのはゼミの活動で、数多くの日系企業が進出しているということを知ったのがきっかけでした。

それまでは漠然と留学し、日本語を教えたいと思っていましたが、これを契機に、まだ訪れたことのない国の経済が発展していく様子を、自分の目で見たいという気持ちが強くなりました。

留学で感じたことは、同じプログラムを履修している学生は、少しでも興味があるならば海外演習をすべきだということです。費用の面でそこまで負担はありません。加えて、日本語を現地の人に教える機会は自分自身の日本語や日本文化を見直す機会にもなります。

なかなか触れることのない宗教、イスラム教を肌で感じ、発展段階の格差など多くを目にし、経験することは自分の考え方を省みる良い機会にもなります。

海外演習を通じて、日本の文化に詳しいインドネシア人に会いました。「この言葉はどのような時に使うの」と質問され、日本語の微妙な差を伝えるのがとても難しさことを発見しました。使っているから、知っているからといって、それを本当に理解しているとは別だということに気がきました。

正直、インドネシアの知識をほとんど持たず留学したため、イスラム教徒の信仰を目にするたび驚きました。私がほとんど無宗教に近いからだと思います。

生活環境も日本では当たり前のことが当たり前では全くありません。お湯のシャワーが出ること、トイレットペーパーを流せること、食事をするところが綺麗であること、授業が定時に始まること……。驚きや不安が数多くある中で、留学生活を楽しめたのはインドネシア人の友達が優しく気さくであったこと、見るものが真新しく、毎日が刺激的であったからです。

8世紀の仏教寺院遺跡のボロブドール寺院、ジャワ原人が発掘されたことで知られる考古学上でとても重要な遺跡のサンギラン遺跡などインドネシアには世界遺産が多く存在し、観光地で知られるバリ島、ジャワ島のほか、かつての大噴火が世界的な異



常気象をもたらしたクラカタウ火山などの自然に恵まれています。

今までの自分と留学後の自分では感じ方や考え方が大きく変わりました。数多くいろんなことを考えさせられた留学生活でした。得られるものが盛りだくさんの留学に皆さん、是非、チャレンジしてください。

(終)

